

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

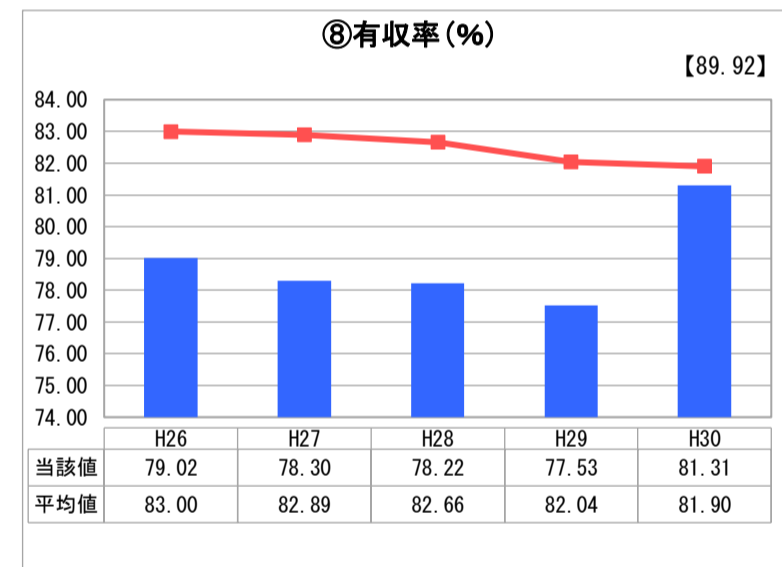
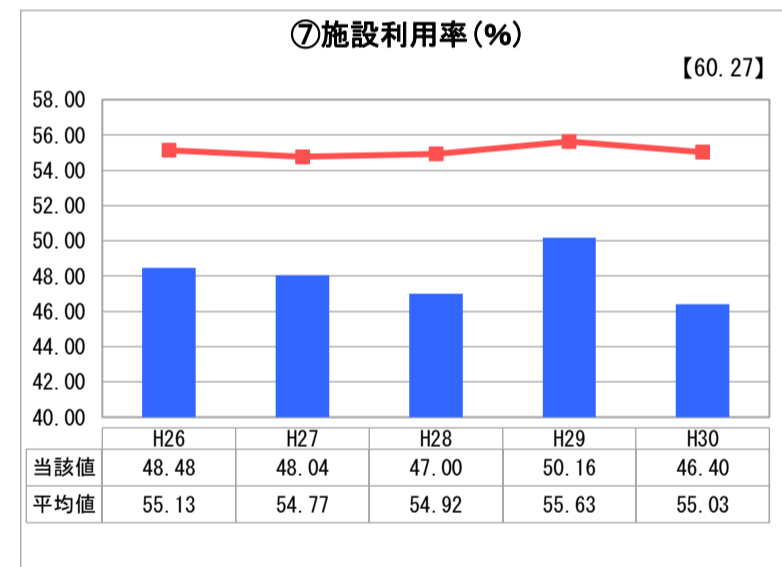
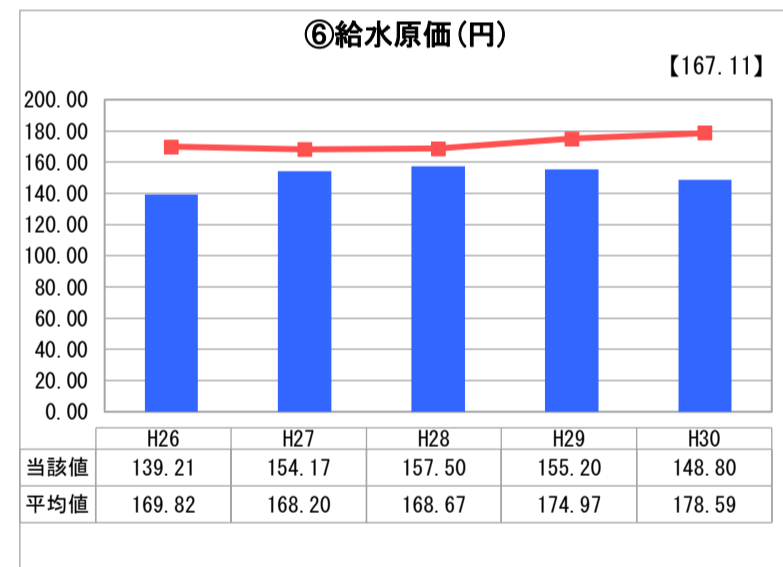
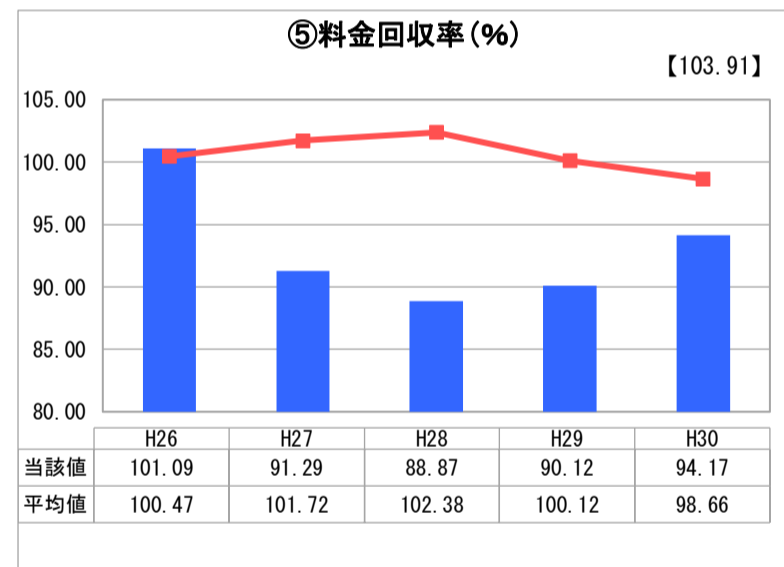
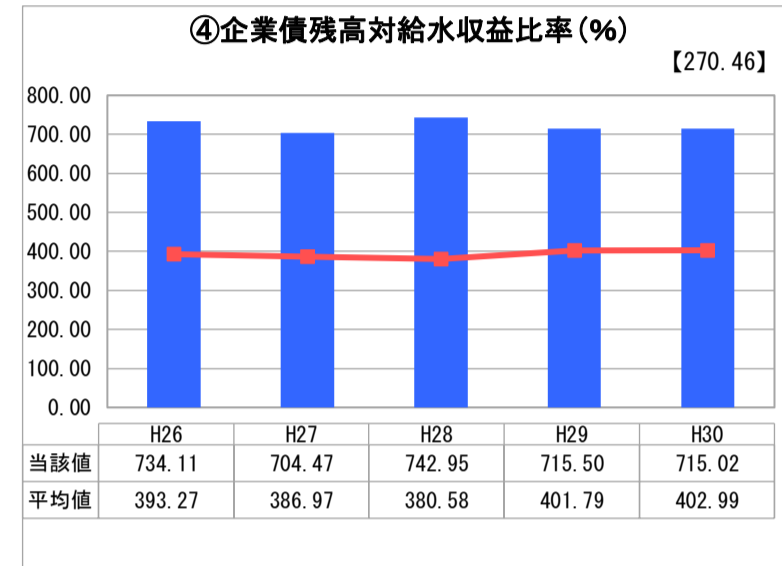
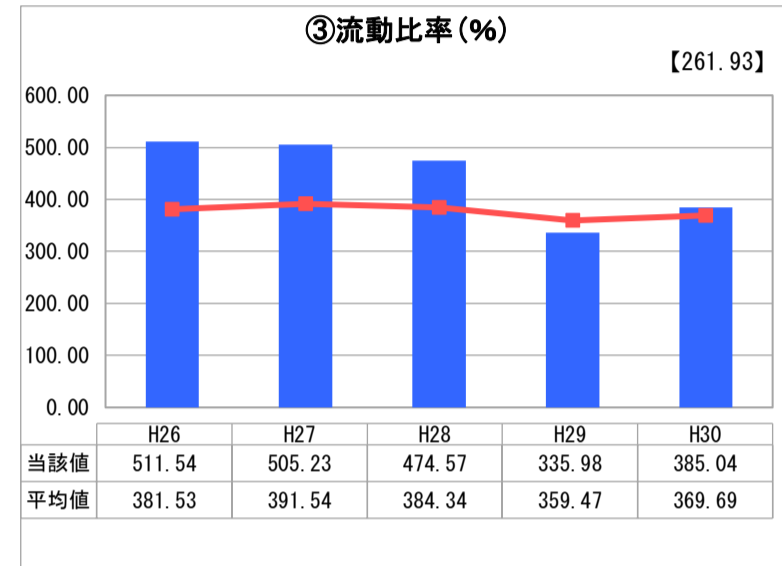
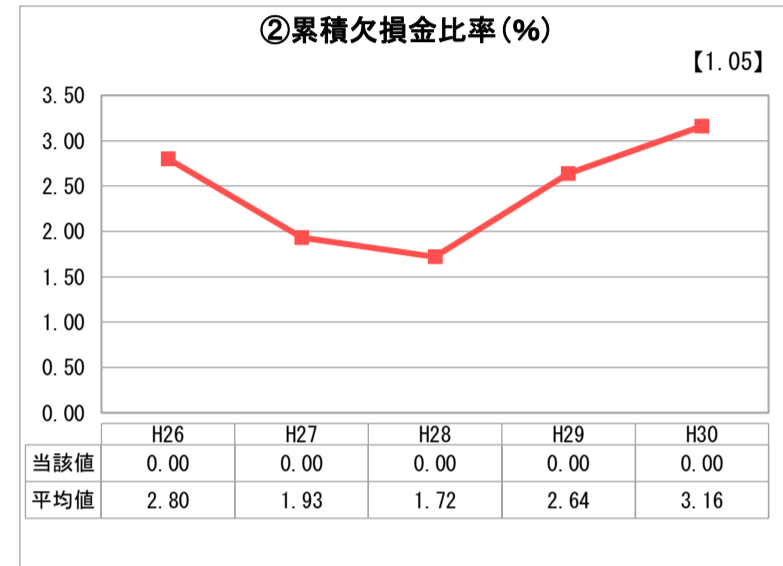
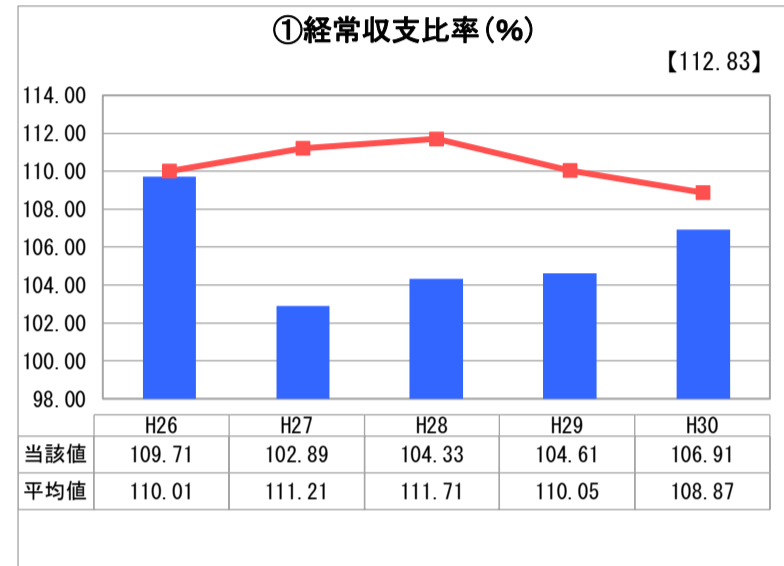
福井県 勝山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	63.34	95.68	2,538	

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
23,365	253.88	92.03
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
22,184	46.15	480.69

<b>グラフ凡例</b>
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率は100%を超えており、平成30年度は黒字となっている。給水人口の減少による給水収益の減が見込まれている事から、さらなる費用削減を行い、健全経営に努める必要がある。

② 給水収益が減少傾向にあるものの、平成23年度以降の簡易水道の上水道統合による給水人口の増加や平成24年度に水道料金値上げをしたこと等により累積欠損金は発生していない。しかし、今後も給水収益の減少が続くと見込まれる事から、料金改定を視野に経営改善を図っていく必要がある。

③ 流動比率は100%以上であり短期的な債務に対する支払い能力はあるといえる。

④ 企業債残高対給水収益比率については、簡易水道の統合により、起債残高がピークであるが、今後は減少していく見込みである。ただし、老朽管等の更新を控えているため、長期的な更新計画のもと、起債を借り入れる必要がある。

⑤⑥ 給水収益以外の収入（繰出基準内）が多い事から料金回収率は100%を下回っている。また、給水原価は直近2年間が減少傾向であることから、さらなる費用削減を行い、料金改定を視野に健全経営に努める必要がある。

⑦ 1日最大配水量と年平均配水量の差が大きいことから、施設規模に対する利用率は低くなっている。今後は、アセットマネジメント等による適切な施設管理に努めていく必要がある。

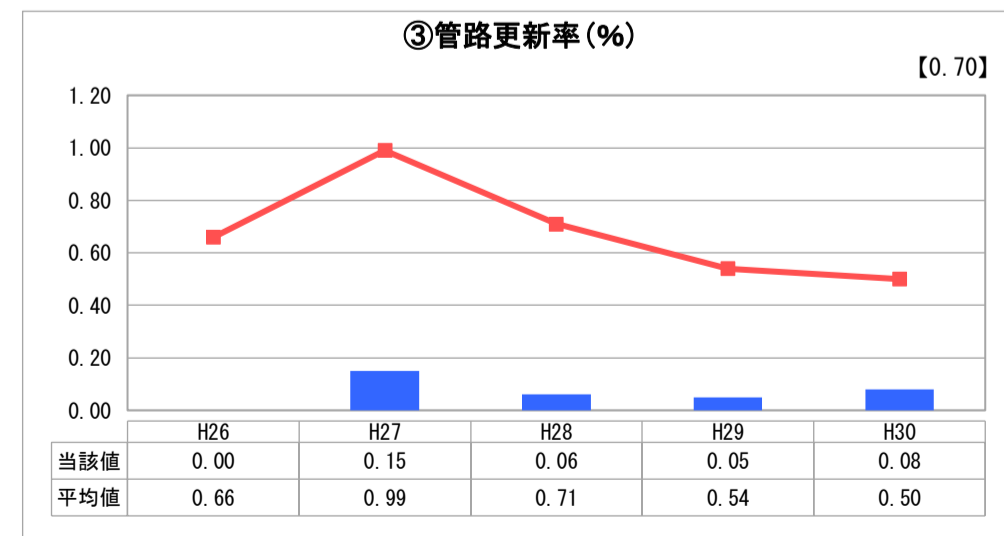
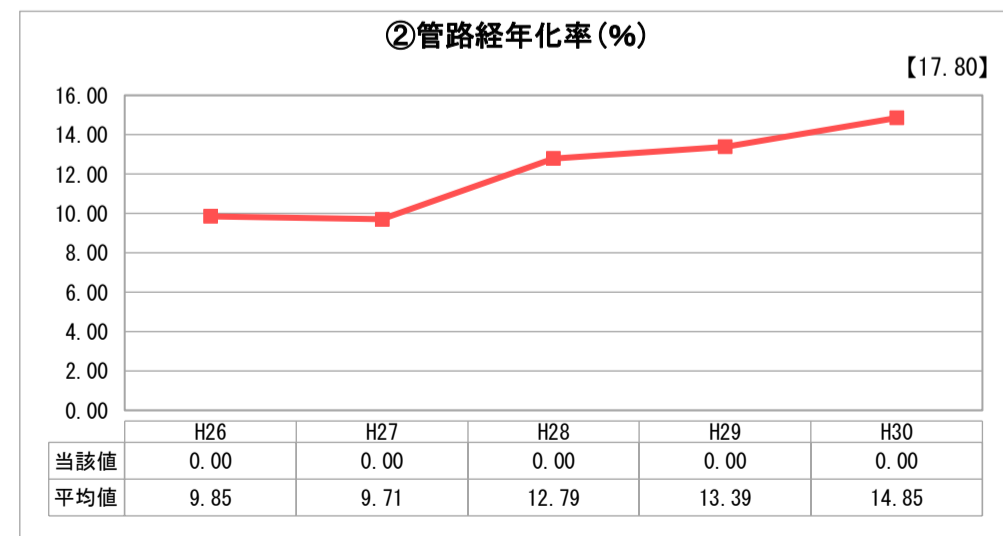
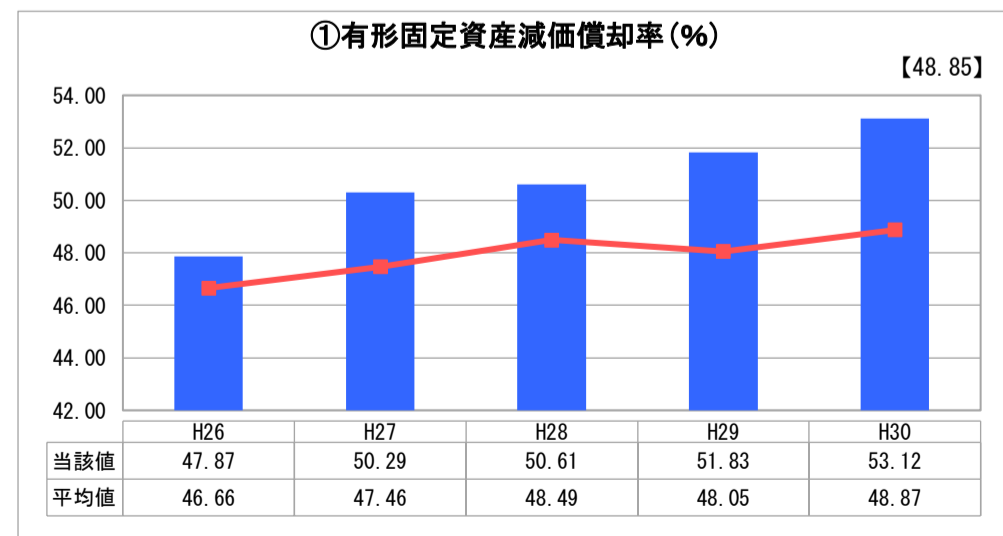
⑧ 平成30年度は漏水調査および修繕を大規模に実施したことにより有収率は過去4年と比較し上昇した。

### 2. 老朽化の状況について

① 耐用年数を迎える施設が増加していることから、有形固定資産償却率が増加している。アセットマネジメント等による長期的な更新計画を元に、財源の確保など経営とのバランスを取りながら、長寿命化に取り組んでいく必要がある。

② ③ 昭和60年の下水道布設時に水道管の布設替を行っているため、管路の法定耐用年数は経過していないものの、耐用年数が近づいていることから、アセットマネジメント等による長期的な更新計画を元に、老朽管の布設替や老朽施設・設備の更新を順次実施していく必要がある。

## 2. 老朽化の状況



## 全体総括

今後も人口減少が続くと見込んでおり、給水収益の減少が事業経営に及ぼす影響は大きい。また、統合施設の維持管理費の増加や既存施設・設備の老朽化など、取り組むべき課題も多く、事業運営は一層厳しくなることが想定される。そのため、長期的な経営計画の検証を行うとともに、効率的な事業運営、適正な料金水準の算定及びそれに伴う料金改定等を検討し、経営改善を図っていく必要がある。